

岩屋中だよい

令和6年12月17日 NO21

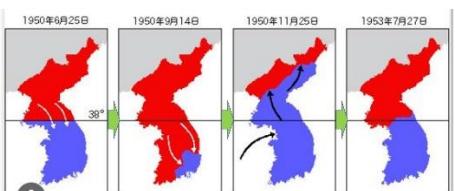
発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

横田めぐみさんを取り扱った『めぐみ』の視聴

全校社会科の授業【北朝鮮による拉致被害について知る】

12月4日(水)5校時、体育館にて、全校生徒対象の社会科の授業を行いました。題材は、北朝鮮による拉致被害について知り、どのような人権が奪われたかを知るという題材です。そのために、拉致被害者の横田めぐみさんの拉致に係る映像を視聴しました。このとき使用したスライドをもとに振り返ってみたいと思います。

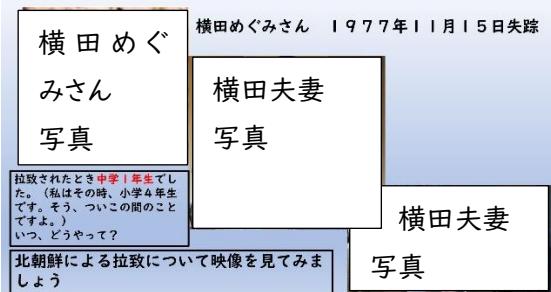


ただいま北緯38度を境にお互いに踏み込まない約束で休戦中。戦争は、終わっちゃいません。

左記の写真は、海の写真です。きれいな海ですが、大変きれいで、ロマンティックな感じがします。日本は、海に囲まれた島国なので、このような景色を多く目にすることができます。視聴当日は、『デートするなら……』という話をして、『やっぱり海ですね』と藤田雄大先生とやりとりをしました。このようなきれいな海にデートに行くのは、普通にあることだと思います。

もし、あなたが恋人と一緒にきれいな海を見て、夕日を見て、楽しい時間を過ごしているときに、突然、後ろから目隠しをされ、手足をひもで結ばれて身動きができないようにされて、殴打されて気絶させられ、気づいたときは、工作船の中だった、外国だったということが自分の身に起こったらどうですか？実際に、それが日本の中で起こっていたのです。このような行為を拉致といいますが、それに関わっているのが北朝鮮という国です。正式国名は朝鮮民主主義人民共和国です。

まずは、その朝鮮半島について説明をしましょう。朝鮮半島は、1910年以降、日本の植民地でした。植民地という言葉は、1年生も地理的分野で勉強しますし、2・3年生では歴史的分野で出てきます。終戦を迎えた後、日本の植民地は、連合国（日本が戦っていた敵国）が占領しました。スライドから「分かるとおり、朝鮮半島の北は、その北にある連合国（ソ連（ソビエト社会主義共和国連邦））が占領し、南からは連合国（アメリカ合衆国）が占領しました。ソ連とアメリカは、ともに経済体制などが異なり、互いに対立していました。ソ連は、占領したところを自国と同じ社会主义の国として『朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）』を建国し、アメリカは、自国と同じ資本主義の『大韓民国（韓国）』を建国しました。この北朝鮮と韓国は、北朝鮮が国境を越えて侵略したことから戦争となり、一時は、朝鮮半島南部まで北朝鮮の勢力は拡大しましたが、その後アメリカを中心とする国連軍が入り、この戦争は、北緯38度を軍事境界線として休戦しています。終戦ではありません。



1977年～1983年にかけて17名に上る人たち（日本政府の認定している人数、17名以外にも多数存在すると言われている）が

北朝鮮から

拉致（らち）された

ヨーロッパの旅行中、鹿児島、新潟、島根、石川、福井、宮崎など。場所不明者もいる。

拉致（らち）

私たちの基本的人権（人権）を無視した重大な人権侵害である

横田めぐみさんが奪われた権利（人権）って具体的にどのようなものなのだろうか？

自分の中で、友人と一緒に、家族と一緒に、自分のこととして考えてほしいと思います。

各学年のクラスルームにワークシートを配信しているので、それを参考に考えてみてください。
感想など記入する欄も用意しています。回答できる人は、12月24日までに回答してください。強制ではありません。皆さんに主体的に考えてほしいのです。

著作権、肖像権の関係上、横田夫妻および横田めぐみさんの写真は掲載しておりませんのでご理解ください。

1977年11月15日、当時中学1年生だった横田めぐみさんは、なかなか自宅に帰宅しませんでした。不安に思っためぐみさんのお母さんが体育館まで迎えに行きましたが、既に帰ったと知られ、待っても待っても帰宅しないので、探し回りました。警察にも捜索願を出して、必死に探しましたが帰宅せず、失踪しました。捜索をしていく中で、北朝鮮により拉致された可能性があること知り、拉致問題も知つてもらうために街頭で演説をしたり、理解のための努力を続けてきました。政府を通して話をしていたところ、事態が急変しました。

2002年9月17日、小泉純一郎首相の北朝鮮訪問。し、北朝鮮側が拉致を認め、「5名生存、8名死亡」を発表し謝罪しました。横田めぐみさんは、このとき、死亡したと北朝鮮から報告があったのです。し 10月15日、拉致被害者5人が日本に帰国しましたが、日本政府は、死亡したとされる人たちについて、北朝鮮と交渉を重ね、北朝鮮は、死亡した証拠として、死亡した発表した人たちの骨を送ってきたのですが、鑑定してみると全く別人のものでした。北朝鮮は、拉致問題は解決したと主張していますが、まだ、帰国できていない人が多数います。その帰国のために、政府や被害者の方々など多くの人たちが運動を続けています。横田めぐみさんは、北朝鮮で生きているという情報も入り、父親の横田滋さんはずっと待ち続けましたが、お亡くなりになられました。拉致被害者ご家族は高齢になり、切実な思いで帰国を願っているのです。

この北朝鮮による拉致は、鹿児島、宮崎、福井、石川、新潟、そして、旅行先のヨーロッパで起こっており、拉致を実行したのは、北朝鮮政府で、人としての権利（人権）を一方的に奪う行為で、あってはならないことです。ただ、北朝鮮当局（政府）により行われたものであって、北朝鮮の国籍の人たちを差別することはあってはなりませんし、早期の解決しなければならない国民の課題と思います。

授業の中でも触れましたが、私たちは、この拉致問題を、しっかりと人権侵害であることを私たちは知り、この解決のために何をなすべきかを自分のみに置き換えて考えることが重要だと思います。しかし、何をどのように考えるかは中学生にとって難しいと考えます。そこで、『横田めぐみさんは、どのような権利を奪われているのか？』を考えると私たちによって解決の第一歩になると思います。

そこで、クラスルームにワークシートを自由課題として配信しました。『世界人権宣言』に記載されている権利のうち、『横田めぐみさんが奪われている権利は何だろう？』という内容になっています。ぜひ考え、感想などを記載して提出してほしいと思います。強制ではないのですが、一人一人考えることから始めましょう。

※既に提出した皆さんの中に、課題が添付されていないケースも見られました。課題配信したスプレッドシートに記入し、提出する際は、そのスプレッドシートを提出してください。『知る→考える→行動する』基本的人権を守っていくための『不断の努力』です。